

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和5年12月8日

公表: 令和5年4月27日

事業所名 ミルキーウェイキッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	利用者の状態によって、職員の目の届きやすいところに迎え入れの準備をします。事前に職員間でどこで誰が過ごすか確認し合っています。	課題は、思春期の利用者のプライバシー保護や、自分で移動できる利用者の安全確保ですが、パーテーションを利用する等して改善していきたいです。
	2	職員の配置数は適切である	2	1	職員は配置基準上足りており、適切です。	一定の曜日や時間帯によっては人が足りないと感じる日があります。ICTを活用し、無駄な事務を省いていきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1	パーテーションを活用して区切っています。	トイレに元々の段差があるため、利用者が転倒しないか心配な時があります。今後、工事を入れる、物を使って段差を埋めるなど工夫をして改善をしていきたいです。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	日々の意見を出し合う機会はありません。	情報共有についても、徐々に改善できています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0	保護者とのコミュニケーションは積極的にとっています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	0	公表しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	第三者評価制度は取り入れられていません。	今後、導入を検討します。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	研修に積極的に参加しています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0		アセスメントのやり方を検討していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	3	標準化したアセスメントは使用していません。事業所で使用している状況をまとめ、場面の前後の情報を整理、情報共有しながら行っています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0		看護師からもアドバイスをもらうことで、重心児や医療的ケア児に適した内容を考案していきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	0	放課後利用時は集団活動を行いにくい面があります。	粗大運動や音楽活動などの集団で楽しめる内容を積極的に実施していきたいです。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	0		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	習慣化できています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	職員間の連絡も以前に比べて増えました。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	支援の記録では、支援の検証や改善には繋がられてはいません。何か問題行動があった際は状況をまとめてノートやLINEにて周知できるように行っています。	連絡帳は記入しますが、支援に関しては記録が取れてないことがあるので、先日記録を残そうと他の職員さんと話したばかりです。時々しか来ないパート職員が見ても分かるような記録を残せたらと話し合っています。ケアリストという、支援に関して注意すべきことを記載する記録を徐々に作って行っています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	定期的にモニタリングを行い、支援に携わっているスタッフから意見や状況を確認し、ご家族からの要望も踏まえて計画の見直しを行っています。	会議をする時間がなかなか確保できない面もありますが、携わっているスタッフから意見や状況をしっかり確認する機会を作る必要があると考えています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	0	0		ガイドラインを再度確認し、現在の状況も踏まえて支援を行っています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	送迎時に学校の先生とその日の様子などはお聞きしています。先生とお話しできない事があります。	必要に応じて電話などで情報を得られるようにしていきたいです。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	0	受診に付き添ったり、リハビリの見学に行ったりして連絡体制を整えています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	3		生育歴について、不明なことが多いため、積極的に情報収集をしていきたいです。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	2	障害福祉サービス等へ移行されるご利用者さんがいない為、実施できていません。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0	嚥下訓練を受けている利用者に関して、情報をいただきました。	
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6	コロナ禍の為、交流はできていません。	今後、交流を行ってきたいです。	

	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	3		夜に実施されているので交代で参加するなど工夫していきたいです。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	送迎の際にお伝えしています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	0	ご家族から相談があった際は、話し合いながら、助言を行っています。また将来、身体の成長等、ご家族に予めお早めにお伝えし、ご家族がお子さんを支援できるようお伝えしました。	保護者様に対しては、直接的には出来ていないが、ご利用の関係機関(相談支援専門員、他事業所)と連絡を取り合い情報共有しています。今後、ペアレント・トレーニングの研修を受講し、対応していきます。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1		今後、よりきちんと説明した上でご契約いただくようにしていきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	その場で返答できないことは持ち帰り、職員間で相談し合ってお答えしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5	現在実施できていません。	Zoom等使い、保護者会を行うことを検討いたします。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0		整備したものをしっかりと活用していきたいです。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	通信を発行しております。	
	35	個人情報に十分注意している	5	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1	職員には周知できていますが、保護者まで周知できていない部分もあります。	今後、保護者会等でお伝えし周知していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	一年に2回防災訓練を実施しております。	地域防災委員会の活動を活発に行なっていきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	定期的に行なっております。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	0	整備しております。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	0	アレルギーの有無をわかりやすく掲示しております。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	声を掛け合い事例周知しています。	